＊＊

静内ケアセンターだより１２月６日号

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊twitter も読んでください。

軽度者の総合事業移行見送り

第６９回社会保障審議会保険部会に厚生労働省は２０１８年度介護保険制度見直しに向けた意見書素案を示し、大筋で了承された。焦点だった給付の在り方では、軽度者（要介護１と２）への訪問介護と通所介護の介護予防・日常生活支援総合事業移行を見送るとした。

＊＊

平穏死の第一人者です

西宮の「つどい場さくらちゃん」こと丸尾多重子さんの所に行く時には時間を合わせて呑み語る長尾和宏氏は同志である。

我が師である【故】山田　茂医師は「病院は死ぬ場所ではない」を残し、富部医師はそれを引き継いで在宅やグループホームでの看取りを行っている。長尾先生の平穏死の実践が行われているとも言える。

自宅であれ、グループホームであれ医療と介護の連携こそが不可欠であり、その上において死を受け入れ、邪魔しない生活支援なのです。グループホームでの看取りこそが介護の醍醐味であり、傷み苦しむことなくハッピーな旅たちを共感しよう。集まれ！

看取りテーマに長尾氏講演など

来月28、29日に札幌で自主研修

道ＧＨ協

道認知症グループホーム協会は、自主研修シリーズⅢ「グループホームでの看取り」を２０１７年１月28、29日に札幌市厚別区の北星学園大で開く。

28日午後1時から、兵庫県尼崎市で複数医師と年中無休の外来診療・在宅医療を展開し500人を超える患者を自宅で看取ってきた、長尾和宏長尾クリニック理事長が「がん、認知症、死ぬまでハッピー！」と題し講演する。

29日は午前9時半から「看取りの取り組み」について」を釜谷嘉ＧＨ花縁総合施設長が講演するほか、西塔昭代ＧＨぞう施設長による実践報告、グループワークを予定。

すべての介護関係者が対象で定員150人。参加費5000円（非会員1万円）。申し込みは13～15日。問い合わせは☎011（208）3320。

＊＊

Ｗさんの偲ぶ会

無宗教での「偲ぶ会」「お別れ会」は初めてであるが、家族の希望する在り方であり、昨夜は家族と職員により行われました。８４歳の生涯でしたが、薬剤師であったので自分の体に対する知識もあり、発病に対する医療拒否に困惑された事もありました。Ｗさんの強い意志であり生き方でもありました。２年前のある日治療を認め入院となりました。入退院を繰り返す後半の２年間でしたがホームに戻った時には静かな余生という感じでした。

我が支援ハウスには認知症以外の高齢者も暮らしています。Ｗさんは認知症もありませんでしたし、様々な事情から在宅で暮らせない。地域では暮らしたくない人もいるのです。５０００人以下の町で暮らす人にとっては地域密着型の弊害も出始めています。人生の最後くらい自分の希望する地域で暮らせるべきです。Ｗ氏のようにえりも町から新ひだか町に来る人も居れば、「新ひだか町の特養にはいつ入れるか解らないので札幌で探します」の相談もあった。

＊＊